

## 第3章 都市の将来像

### 1. 都市づくりの基本理念と基本目標

- ・ 本市の都市づくりに関する課題等を踏まえ、都市づくりの基本理念と基本目標は以下のとおり設定します。

#### ①基本理念

人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市  
～産業と地域文化が独自の輝きを放つ、安全・安心でコンパクトなまちづくり～

本市は、西日本最高峰の石鎚山を背景として、「うちぬき」に代表される豊かな水資源により、産業や地域文化が発展してきたため、他都市にはない魅力を持っています。近年では、移住者・定住者も多くみられるようになり、地域の活力を向上させるための機運が高まりつつあります。

一方で、人口減少や少子高齢化に伴う市街地の低密度化の進行、厳しい財政状況の中、都市基盤施設等の老朽化への対応、さらに、激甚化・頻発化する災害への対応など、本市を取り巻く状況は厳しくなっています。

20年後のまちづくりの主役である若い世代を中心に、誰もが快適で安心して今後も暮らし続けることができるように、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを更に推進します。

#### ②基本目標

##### 基本方針1 「コンパクト・プラス・ネットワーク」を目指したまちづくり

- ・ 本市では、平成29年に「西条市立地適正化計画」を策定し、居住及び都市機能の誘導と各拠点を公共交通で結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進めてきました。
- ・ 都市拠点については、市街地の低密度化を抑制するための秩序ある土地利用の形成を図るとともに、人口減少等により発生する空き家等の低未利用地を活用したまちづくりを推進します。
- ・ また、都市機能の維持・誘導とともに、老朽化が進行する公共施設の再編等による集積化を図ることで、生活利便性が高く暮らしやすいまちを目指します。
- ・ 拠点間を結ぶネットワークとなる都市基盤施設については、引き続き適切な整備・維持管理等を図るとともに、鉄道やバス等の公共交通についても維持・確保を行うことで、自家用車による移動が困難な高齢者などの生活利便性の向上や拠点外に居住する郊外エリアからもアクセスしやすい自家用車に過度に依存しないまちづくりを推進します。

## 基本方針2

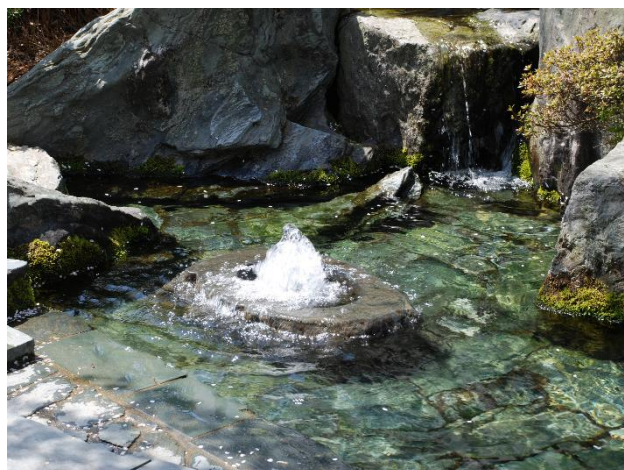
### 若い世代がこれからも暮らしたいと思えるまちづくり

- ・本市では、近年より移住推進や関係人口拡大の取り組みを行ってきたことから、若い世代の居住ニーズが高まっています。このような機会を活かし、20年後のまちづくりの主演となる若い世代の居住誘導を図るため、誘導区域の見直しと良好な住宅供給による計画的な誘導を図るとともに、誘導区域と連動した、子育て世帯等に効果的な誘導施策の維持・充実を図ります。
- ・また、進学を機に市外へ転出する高校生に対して、また帰ってきたいと思ってもらえるよう、住みやすいまちづくりの推進や賑わい創出のための場づくりなど魅力的なまちづくり施策により、まちへの愛着と誇りを醸成します。
- ・さらに、四国最大規模の工業地帯を有する本市の強みを活かし、アクセスしやすい適地に企業を誘致することで、若い世代の就業機会の充実や地域活力の増大を図ります。

## 基本方針3

### 豊かな地域資源を活かした産業の活力あふれるまちづくり

- ・本市はうちぬきに代表される水資源や西条まつり、由緒ある寺や名湯など、豊かな自然環境や歴史遺産、産業、観光資源等を有しています。これらの地域資源を保全・活用し、都市空間形成に活かすことで、居住地としての魅力向上を図り、個性があり地域住民等が愛着を持てる、西条市らしいまちづくりを目指します。
- ・また、各種取り組みによって関係人口の拡大を促進するとともに、来訪者の多様なニーズに対応できるよう、観光拠点の整備を図ることで、再び本市を訪れたいと思ってもらえるよう、受け入れ体制の強化を推進します。

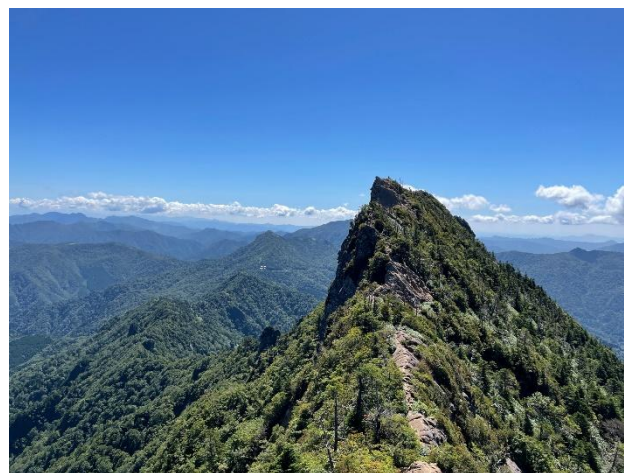


うちぬき

## 基本方針4

### 人や環境に優しく持続可能なまちづくり

- ・本市が有する石鎚山や河口干潟、燧灘等の豊かな自然環境を適切に保全し、次世代への継承を図ります。また、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取り組みを推進するため、各種施設や低未利用地等への再生可能エネルギーの導入や森林環境の保全のほか、過度に自家用車に依存しない生活様式への変革を促すなど、温室効果ガスの排出抑制を進めます。
- ・今後、さらに少子高齢化の進行が予測されていることから、バリアフリーに配慮した各種施設の整備や公共交通の活用を図ることで、



石鎚山

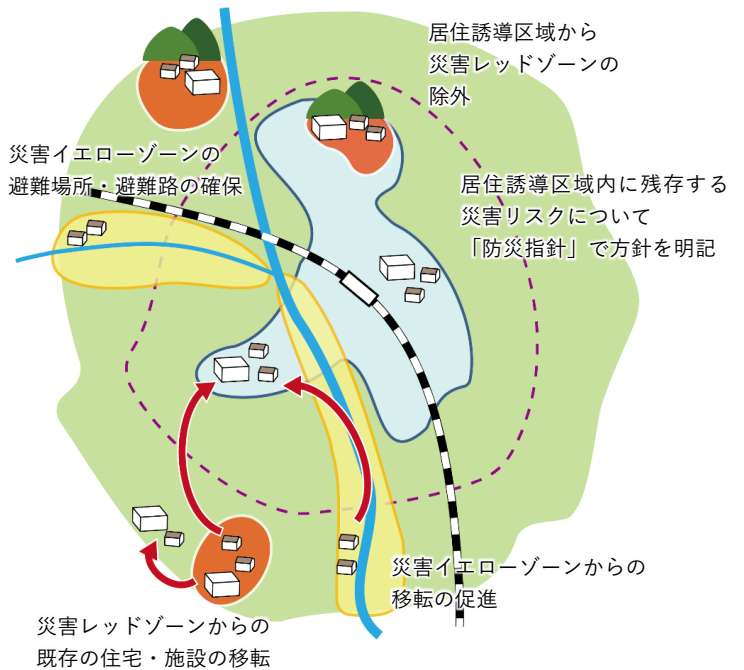
快適に歩いて暮らせるまちづくりを推進します。

- ・ 計画の推進にあたっては、地域住民やまちづくり団体、事業者、行政等が連携していくことが重要となります。そのため、計画の策定段階から、目標達成に向けた施策の実施段階に至るまで、多様な主体がコミュニケーションをとりながら参画することで、持続可能なまちづくりを目指します。

### 基本方針5 誰もが安全・安心に住み続けられるまちづくり

- ・ 本市は石鎚山系の麓に位置するとともに瀬戸内海やそれらに流れ込む河川に囲まれていることから、市街地においてもいくつかの災害リスクを含んでいます。特に発生確率が今後 30 年以内で 60%~90%程度以上と想定されている南海トラフ巨大地震や近年多発している豪雨災害など、常時から災害への備えを検討しておく必要があります。
- ・ 災害危険性が高いエリアから安全なエリアへの居住誘導や、災害リスクが残存するエリアに対するハード・ソフト対策の取り組みなど、関係機関や地域住民との協働により、誰もが安全・安心に住み続けられるまちづくりを推進します。







#### ■ 防災に強いまちづくりの取組イメージ



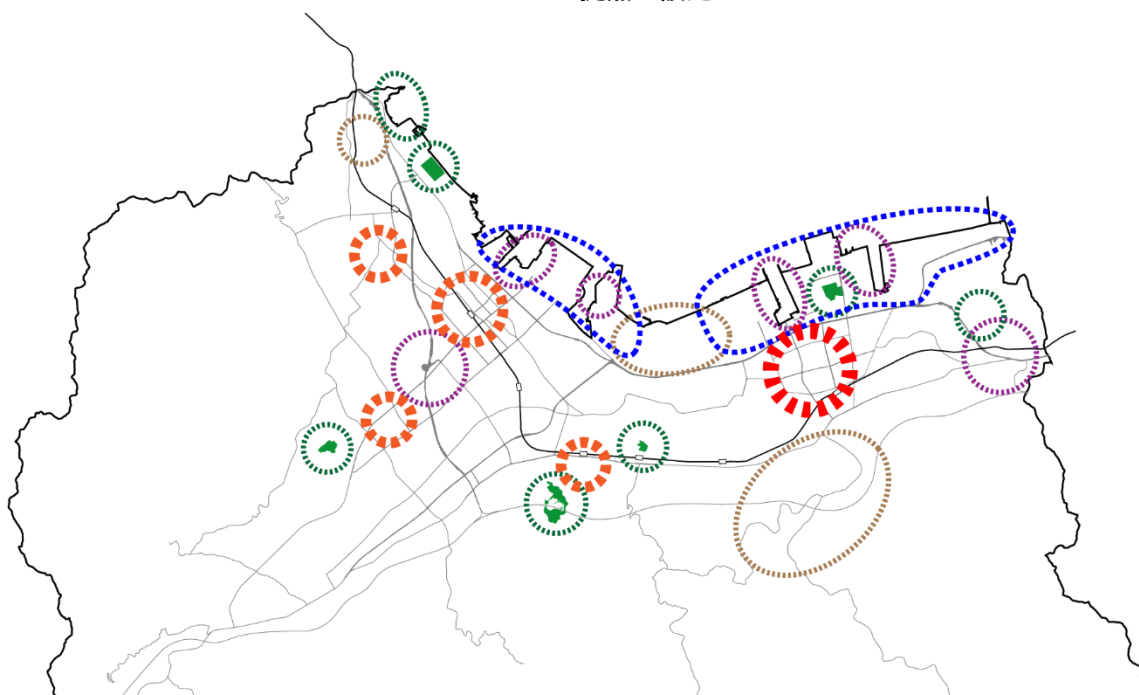
## 2. 将来都市構造

- 将来都市構造とは、都市づくりの基本理念や基本方針を達成するため、現在の土地利用や自然などの地域資源を踏まえ、将来の望ましい都市構造（土地利用と地域間連携の大きな方向性）を示すものです。本計画では、拠点・連携軸・ゾーンの3つの要素で構成します。




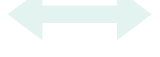

### ①拠点

都市拠点	 <b>西条市役所や伊予西条駅周辺</b> 本市の中心部として利便性が高く、賑わいの創出を図る拠点
地域拠点	 <b>西部支所、各サービスセンター、主要鉄道駅周辺</b> 日常生活圏を対象とした各地域における拠点
産業拠点	 <b>臨海部の工業地域</b> 積極的な企業誘致を進めるとともに、産業都市にふさわしい工業の集積を図る拠点
流通業務拠点	 <b>瀬戸内海の物流拠点港、インターチェンジ・フェリー乗り場周辺</b> 海の玄関口、陸の玄関口としてそれぞれふさわしい機能の充実や整備促進を図る拠点
自然・文化・歴史拠点	 <b>里山・河川・海などの自然資源、日本の重要湿地に選定されている地区</b> 地域資源の保全及び活用を図り、地域ごとの特色を活用した拠点づくり等を推進する拠点
スポーツ・レクリエーション拠点	 <b>大規模な公園等</b> 市民の余暇活動の拠点として機能充実を推進するとともに、高い防災機能を持つ公園として、防災機能の充実を図る拠点

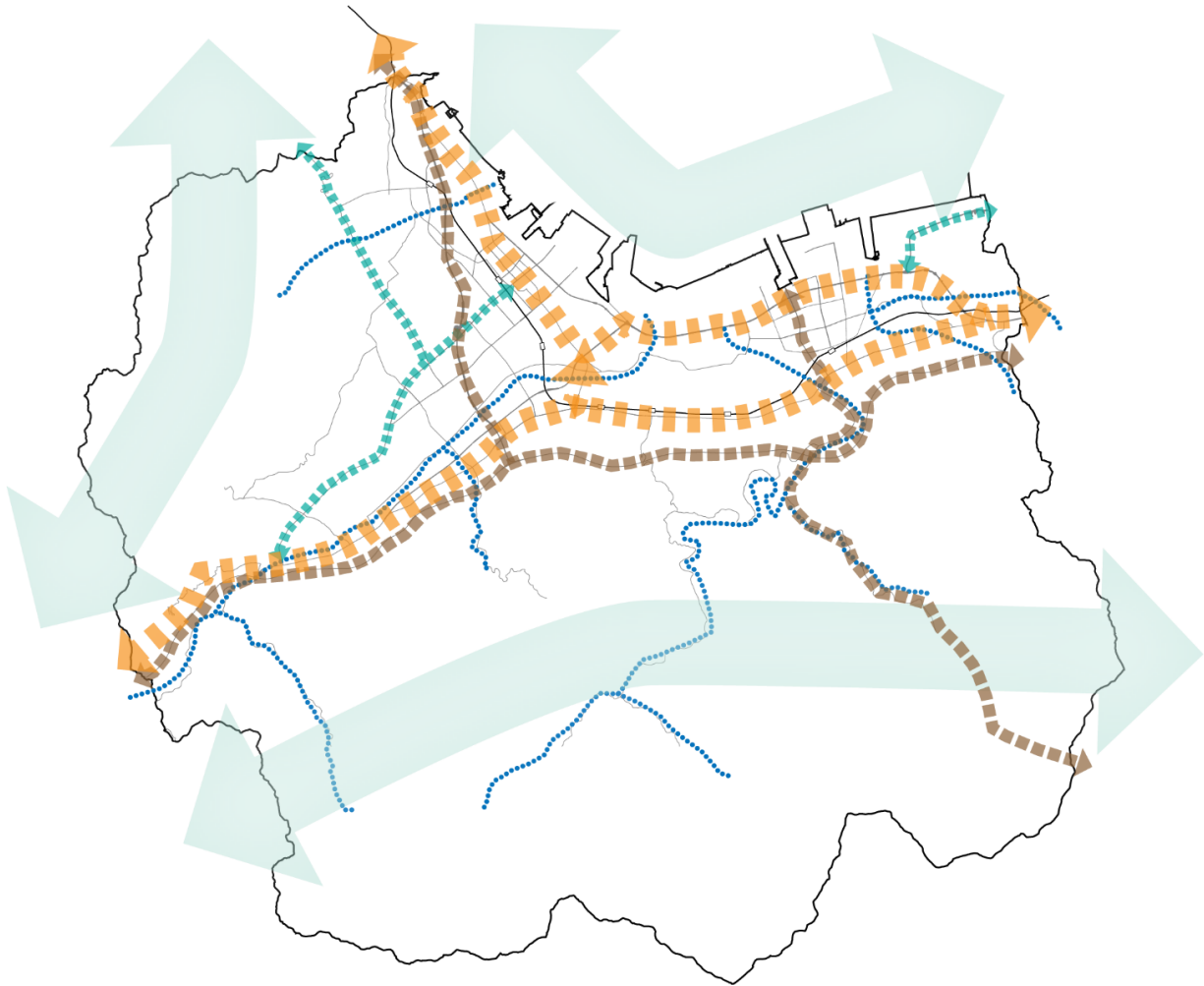
### ■ 拠点の設定







## ②連携軸

都市形成軸		<p>国道 11 号・196 号、(主) 壬生川新居浜野田線、鉄道など</p> <p>本市の都市の骨格を形成する軸であるとともに、周辺都市との交流を促進する軸</p>
広域連携軸		<p>松山自動車道、今治小松自動車道、国道 194 号など</p> <p>都市形成軸を補完し、四国の各都市と連携する軸</p>
地域交流軸		<p>(主) 壬生川丹原線、(一) 今治丹原線など</p> <p>市内の各地域間の連携・交流を促進し、都市形成軸を補完する軸</p>
広域環境軸		<p>瀬戸内海、石鎚山系など</p> <p>周辺都市と一体的に形成される広域的な自然環境軸</p>
都市内環境軸		<p>主要河川</p> <p>本市を流れる河川等の水辺空間</p>

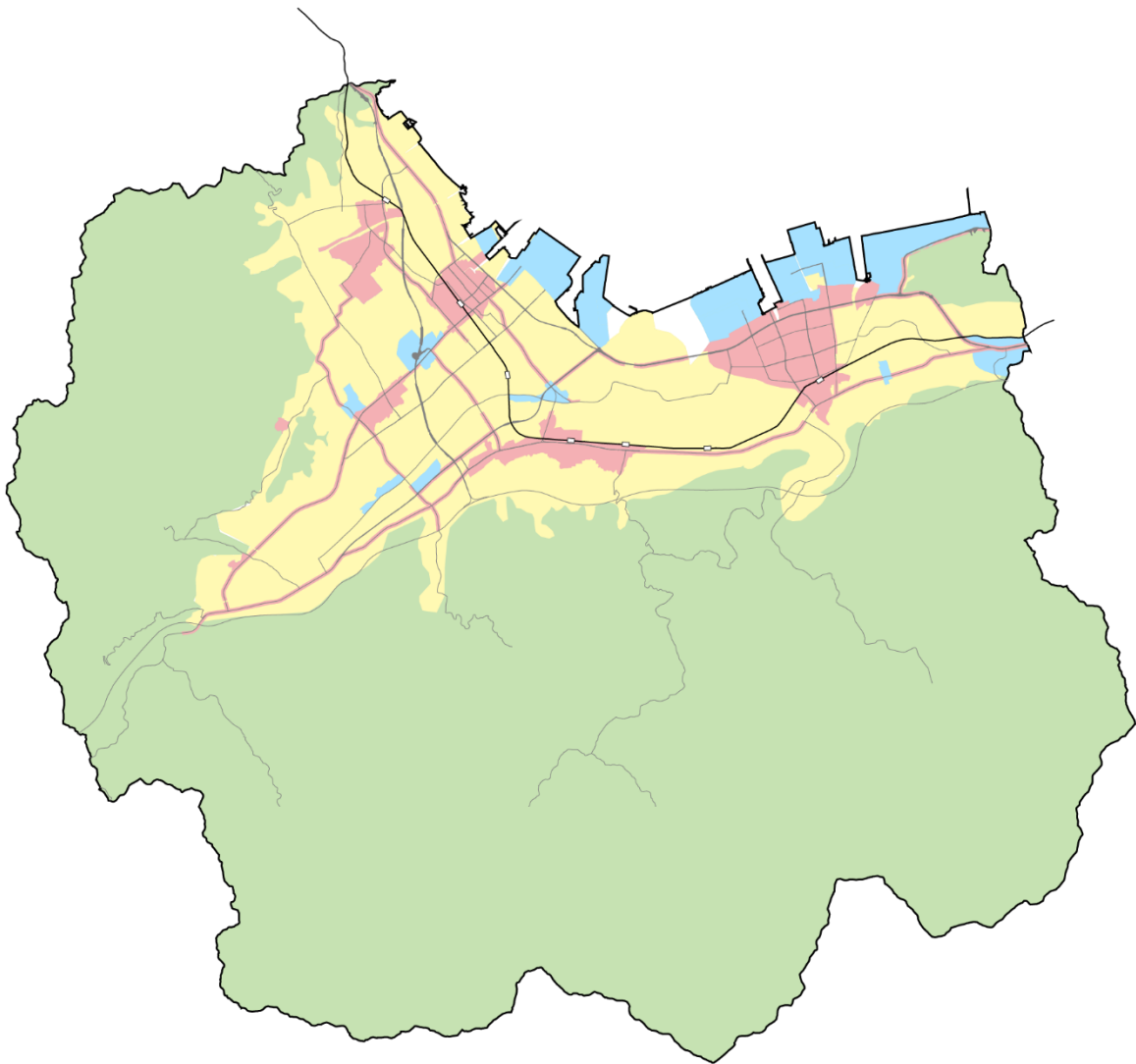
### ■ 連携軸の設定



### ③ゾーン

住居系市街地ゾーン		<b>住居系・商業系の用途地域など</b> 住宅地や商業・業務地等の良好な都市環境の形成を目指すゾーン
工業系市街地ゾーン		<b>工業系の用途地域など</b> 臨海部の工業用地や既存の大規模工場等の良好な生産環境を維持、形成していくゾーン
農住調和ゾーン		<b>農業集落・農地など</b> 良好な営農環境を備えた農地及び農業集落を中心としたゾーン
山林・丘陵地ゾーン		<b>山林・丘陵地など</b> 地域の自然環境を形成するゾーン

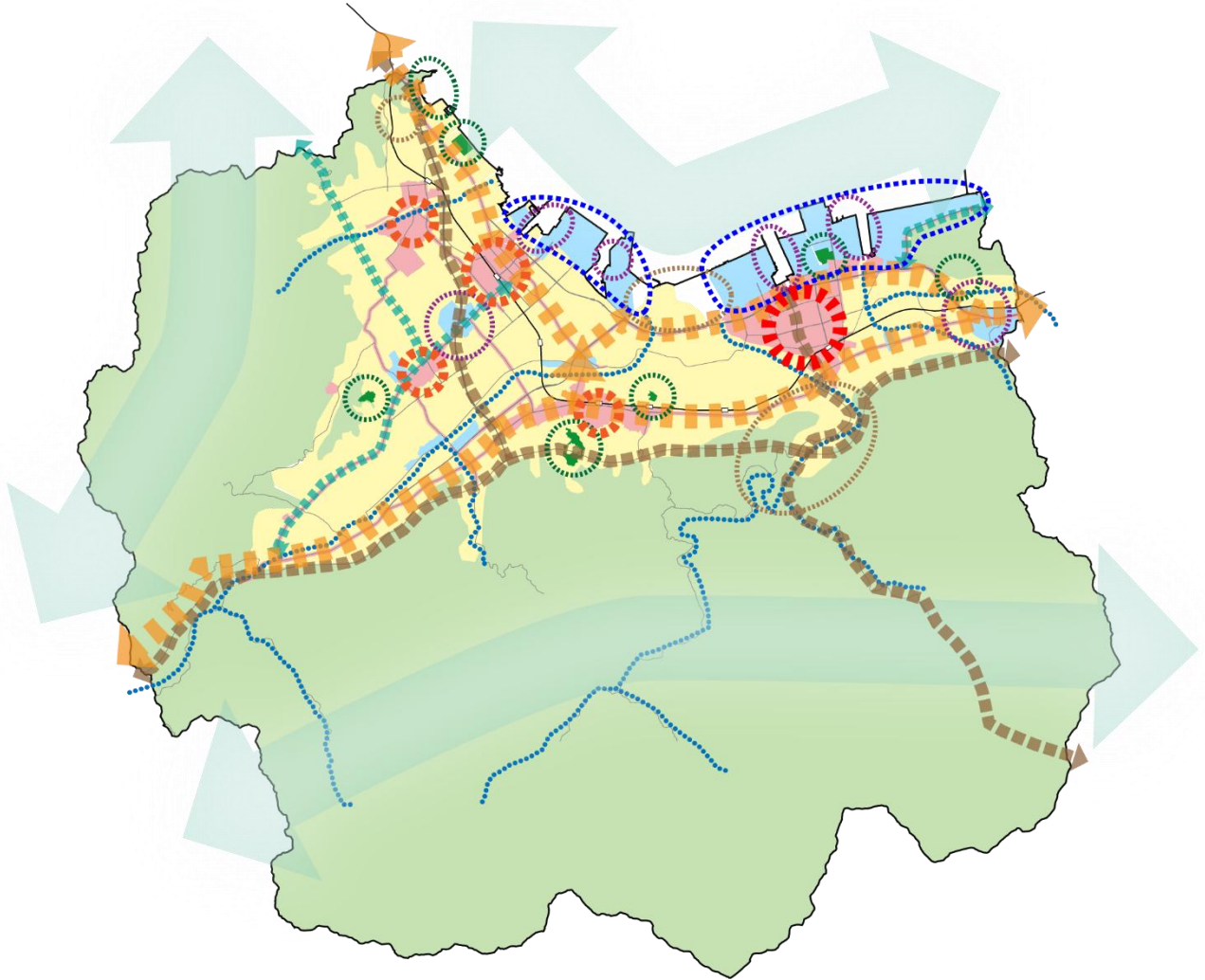
#### ■ ゾーンの設定



#### ④ 将来都市構造

- ・ 拠点・連携軸・ゾーンの3つの要素を重ね合わせた将来都市像は以下のとおりです。

■ 将来都市構造図



凡 例			
	都市拠点		住居系市街地ゾーン
	地域拠点		工業系市街地ゾーン
	産業拠点		農住調和ゾーン
	流通業務拠点		山林・丘陵地ゾーン
	自然・文化・歴史拠点		都市形成軸
	スポーツ・レクリエーション拠点		広域連携軸
			地域交流軸
			広域環境軸
			都市内環境軸

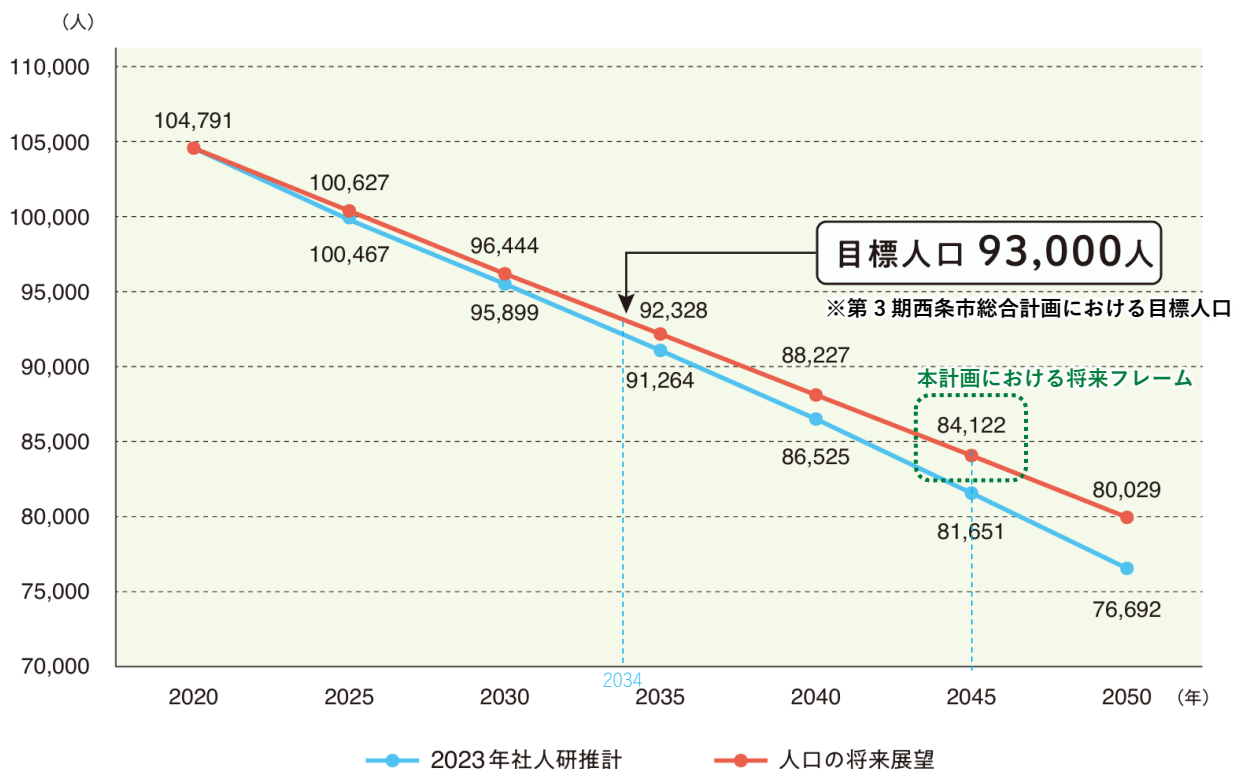
### 3. 将来フレーム

- ・ 将来人口については、上位計画である「第3期西条市総合計画」に示されている「西条市の目標人口」の値の根拠となっている「人口の将来展望」による2045年（本計画の目標年次）の値を用いることとします。

#### ■ 本市の目標人口

約 **84,000 人** (2045 年)

#### ■ 人口の将来展望



出典：第3期西条市総合計画を一部加工